

運命の出逢い（第二部） 23期 KIMI ORR

◆ “夏ミカンサイズのレモン”

ひとつ不便なことにこの地下室に冷蔵庫がない。だから私が市場で買ったものは上の冷蔵庫に持て行かなければならぬ。ところが彼女たちが留守にするときは地下に続く階段のドアを閉めてしまうので、何か入用時にどうすることも出来ない。そういうことがしばしば続くと腹が立ってくる。それをマリヤに伝えると、母親が誰もいない家に私が歩き回られるのが嫌だからだという。一言出かける前に言葉をかけてくれれば済むことなのに。そんな時、裏庭のドアの前のレモンの木に夏ミカンほどのサイズのレモンが鈴なりに生っていた。

『こんなレモンもあるんや！』とカリフォルニアのリッチなソイル（肥沃な土地）に驚いた。腹いせにレモンをいくつか勝手にもぎ取り、クラスメートに配った。

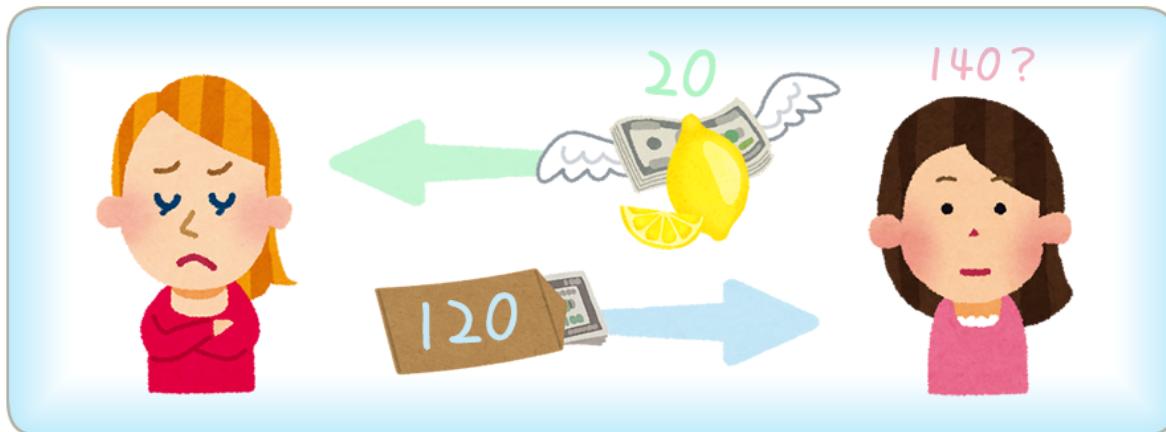
夜11時頃、カセットテープを聞きながらhearing（聞き取り）の練習をしていたら、マリヤが部屋のドアをうるさく叩いた。

こんなに遅くいったい何事だろう、とドアを開けてみると、母親が『下に男がいる、見てこい！』という。どうやら母親はテープの声を聞いたようだ。其の1週間後私はこの家を出ることを宣言した。

12月になると学校が休みに入る、この1か月の間、下宿代を節約するためにベビーシッターをする目的で家賃のいらない家を探していた。その週末、マリヤがディナーを招待してくれた。昼食に友達と待ち合わせていたので準備して出ようと思ったとき「ディナーの準備ができたよ」と、マリヤが言ってきた。『ええ、ディナーって？』一瞬戸惑った。『ディナーだから夜のはず・・・』とは、私の思い違いだったらしい。昼間でもその日の一番良い食事はディナーと呼ばれる。英語ってややこしいんや。日本ではランチがいくらご馳走でも、それを夕食と言わない。（英語が出来ないのは私が問題やと思ってたけど、英語 자체が問題なんや、そんなことを考えながら、階段を上がっていった。）



『ミートボールのスパゲティーディナー』をそそくさと頂いた後、満腹したお腹を抱え、昼食に約束した友達が待っている所に急いだ。そしてマリヤの言葉を思い出していた。『母はあなたに出て行ってもらいたくないのよ』、最後の日、前金を頂きに上にあがったら、母親が「前金は払い戻しません」英語を話せない人なのに、しっかりと英語を話していた。「そうですか。じゃ学校に言いつけます」彼女は私の言葉を理解したのだろう。すぐに奥に入って行き、前金140ドルのはずなのに120ドルを受け取った。「じゃ20ドルは私が頂いた夏ミカン代としてお支払いします」と目で伝えた。



新しいところに移ってからもマリヤからしばしば連絡してきた。そして『パーティーに行こう』とまた誘ってきた。

♣ 摺れ動く決心

アメリカに来て瞬く間に2か月が過ぎた。私は必死に勉強した。学校が終わってもラブ（Lav/学内の自習用の部屋）に残り、hearingに精を出した。嫌いなクラスは積極的に試験を受け、上のクラスに上っていった。家に帰れば夜12時まで、週末は図書館に行って勉強した。そんな毎日であった。学校から帰っても、家を離れるときは週に1回スーパーに買い出しに行くだけだった。

ある時ふとこんなにもがむしゃらに勉強する自分に疑問を持ち始めた。たとえ日本に帰って成功してどうするのだろう。いいマンションに住み、贅沢三昧に住むことが目的なのだろうか。いや私の人生はそんなもんじゃない。そんなことどうでもいいんだ。私は人を愛する心をもっている。この愛をシェアする人がいたらなんて素晴らしいだろう。そして『結婚は私の人生ではない』というこれまで有していた確信も疑わしくなってきた。





感謝祭（Johnとの出逢い）

そろそろヘアカットに行く時期だなと思っていたら、学校の掲示板に日本語と韓国語で書いたヘアサロンのチラシが貼ってあった。学校のすぐ近くだったので行ってみたら、韓国の方が二人おられた。日本が韓国を統治していたころに学生だったので日本語は堪能であった。でも私がしゃべる日本語と、自分たちがしゃべる日本語が何か違うといって、その違いに興味を持たれすぐ親しくなった。彼女たちは姉妹で、サロンの主は妹のポーリンで、姉のナンシーは軍隊の語学学校で韓国語を教えていた。帰り際にナンシーが「KIMIの英語が上手になるようにアメリカのボーイフレンドを紹介してあげるよ」、彼女のそんな言葉も軽く流してそのまま別れた。



あれから1か月ほどして、ポーリンから連絡があり感謝祭の日に彼女の家に来ないかと招待された。ターキー（脚注②）のご馳走を期待して行ったら、干し魚を焼いて出してくれた。そうか、この人たちは感謝祭のお祝いをしないのだ。何となく納得した。私達の晚餐会が終わって、しばらくしたらナンシーが若いアメリカ人の男性を連れてやってきた。この時初めてJohnと出逢った。彼と私はお互いに名前を紹介して、そのあとほとんど言葉を交わすことがなかった。ナンシーは生徒たちと一緒にレストランで感謝祭を祝い、そのあとで映画に行こうとJohnを誘った。でも映画に行かないでここにやって来た。私達が話している間も彼は一度も会話に加わらなかった。それで彼に対する印象も薄かった。

（脚注②ターキー）

秋の収穫を祝うアメリカの感謝祭の食事は七面鳥の丸焼き / roast turkey.
アメリカでは毎年11月の第4木曜日が感謝祭で、七面鳥の日とも呼ばれる。



（次回に続く）